

お客さまに寄り添い、信頼される〈地域総合サービスグループ〉として、地域社会の豊かな未来の創造に貢献します

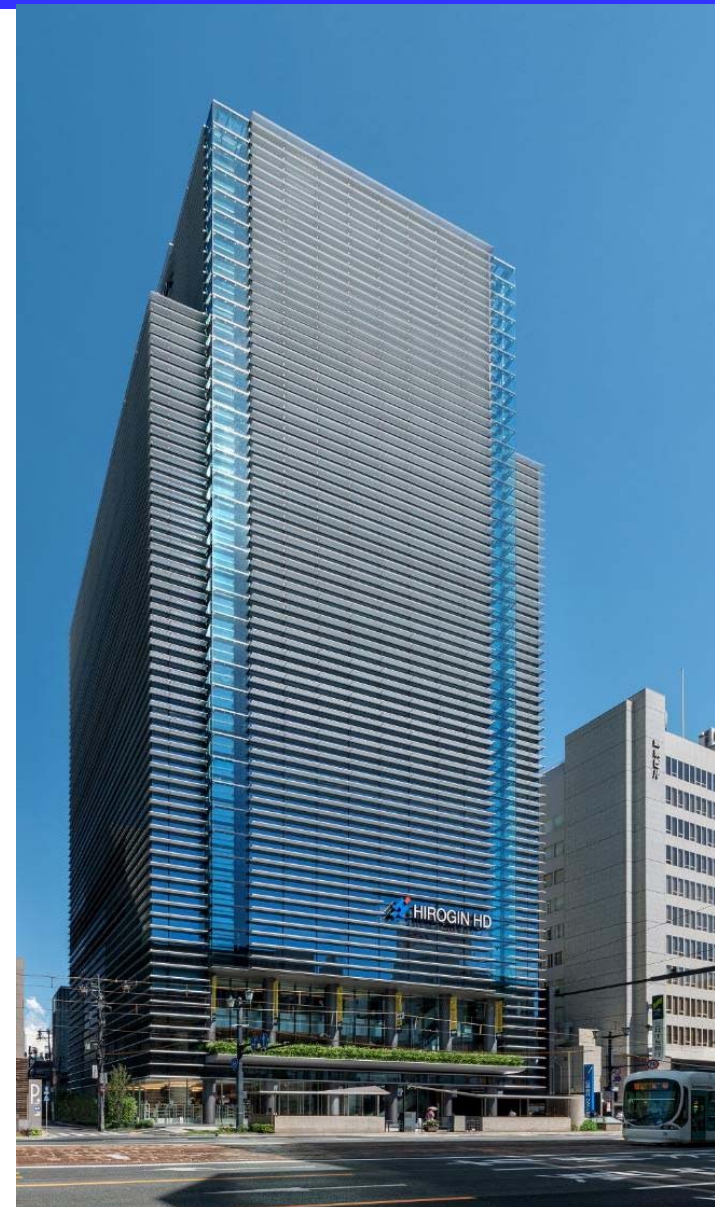
会社説明会資料

2023年7月31日

未来を、ひろげる。



(東証プライム 証券コード：7337)



目次

01	当社グループの概要	p.2
02	戦略	p.6
03	業績	p.22
04	資本政策	p.27
05	最後に	p.34

01

当社グループの概要

02

戦略

03

業績

04

資本政策

05

最後に



株式会社 ひろぎんホールディングス (Hirogin Holdings, Inc.)

本店所在地

広島市中区紙屋町1丁目3-8

代表者

代表取締役会長 池田 晃治
代表取締役社長 部谷 俊雄

資本金

600億円

設立日

2020年10月1日

グループ従業員数
〔2023年3月31日時点〕

3,739名



株式会社 ひろぎんホールディングス
(Hirogin Holdings, Inc.)

決算日

3月31日

上場証券取引所

東京証券取引所 プライム市場

銘柄名
(日経新聞記載名)

[金融・保険] ひろぎんHD

証券コード

7337

最低購入額
(2023年6月30日時点)

81,600円

経営ビジョン

ブランドスローガン

お客さまに寄り添い、信頼される
〈地域総合サービスグループ〉として、
地域社会の豊かな未来の創造に貢献します



未来を、ひろげる。

- 01 当社グループの概要
- 02 戦略
- 03 業績
- 04 資本政策
- 05 最後に

当社グループの目指すもの

目指す姿

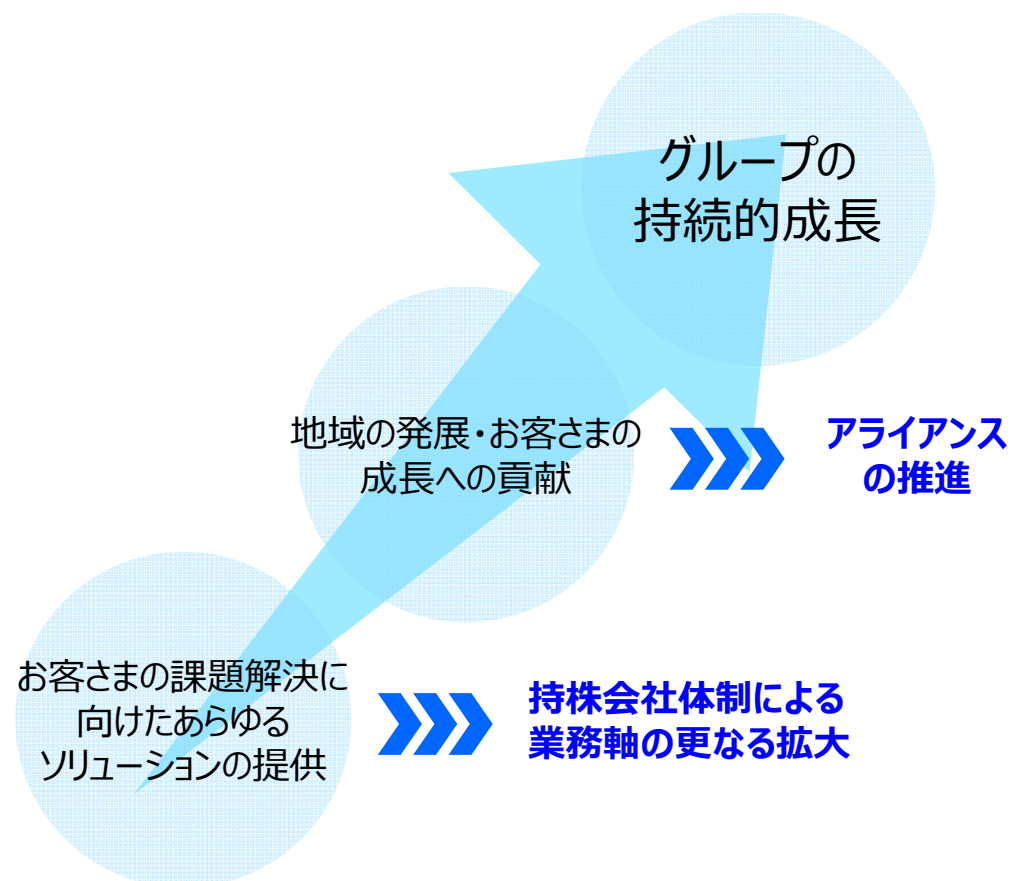
経営理念 (経営ビジョン)

お客さまに寄り添い、信頼される〈地域総合サービスグループ〉として、地域社会の豊かな未来の創造に貢献します

基本方針

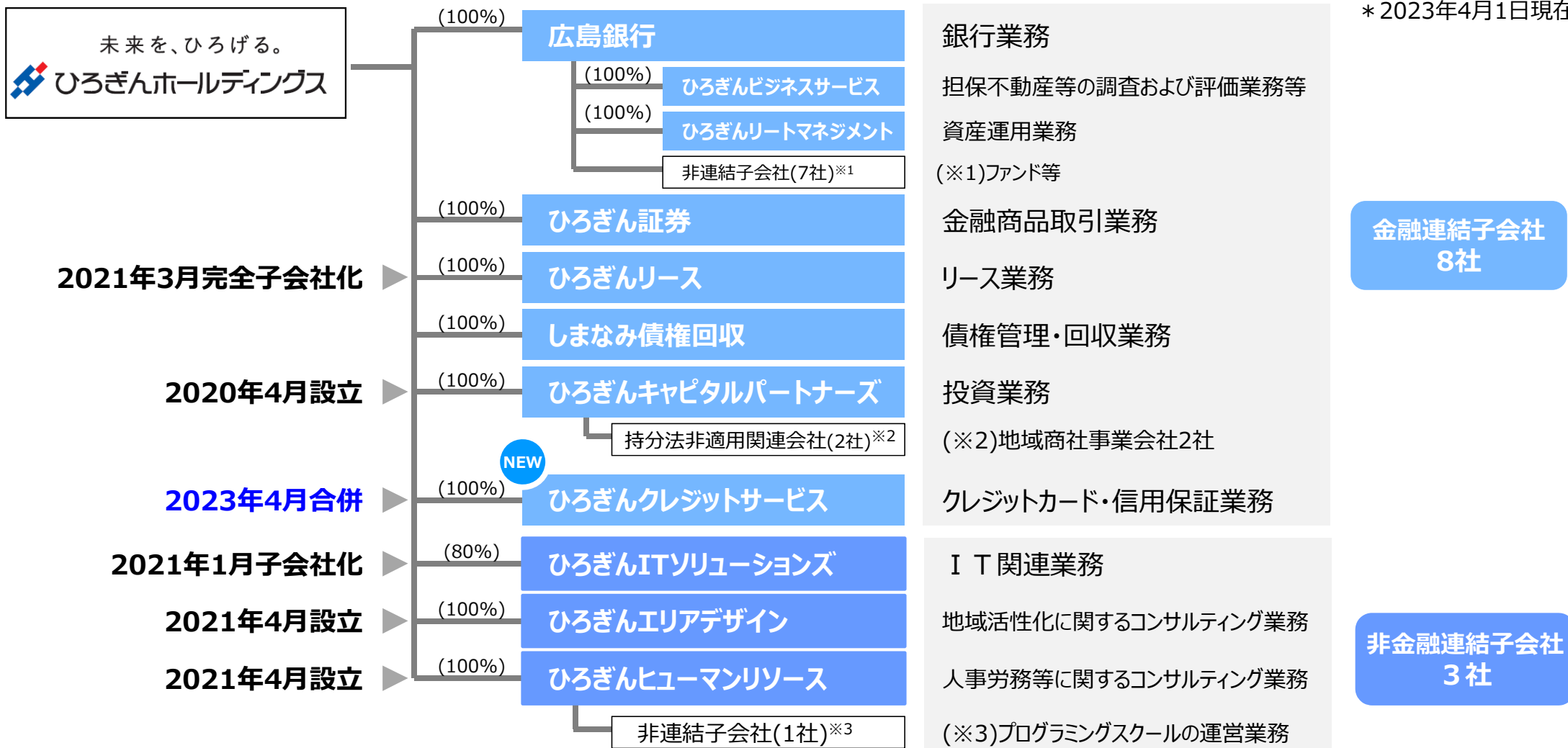
ポテンシャル(経済規模・成長機会等)のある広島を中心とした地元4県(岡山・山口・愛媛)マーケットにおいて、業務軸および顧客軸の深化・拡大を図るなか、地域社会・お客さまのあらゆる課題の解決に徹底的に取り組む、地域の発展に積極的にコミットすることで、経営理念を実現し、グループの持続的成長を図る

ビジネスモデル



企業グループの構成

* 2023年4月1日現在



今年度中に、持分法適用会社含め 2 社程度の新設を検討

持株会社体制への移行 - 目指すビジネスの考え方 -

これまでの成果と課題

成果

- 従業員の「地域総合サービスグループ」としての意識改革の実現
- グループ会社の相互連携は順調に進み、グループのあらゆる機能とアライアンスを活用した非金融分野を含めたソリューションの提供を通じて、顧客軸は着実に拡大

課題

- 当社（ホールディングス）を中心とした戦略の立案・展開の高度化
 - アセットマネジメント分野（個人分野）や有価証券運用における今後の収益力向上に向けた戦略の立案・展開
 - 業務効率化・業務集約の高度化

ホールディングス化の第1ステージは順調

今後の展開

「中期計画2020」の最終年度として、

- 中計を高いレベルで達成させる（親会社株主に帰属する当期純利益270億円超の必達）
- 次期中計に向けた取組みを進める

- ホールディングスの営業戦略企画部門の強化
 - グループ全体の営業戦略の立案強化
 - 子会社各社の施策立案・アライアンスへの関与の強化・深化
- ニュービジネスへの取組強化（業務軸の拡大）
- DXの推進

ホールディングスの第2ステージへ

次期中計においては、

- 地域のマテリアリティへの対応
- 当社の成長戦略

を明確に示す

グループ各社のクオリティ向上 ・業務軸の拡大

- グループ各社のソリューションの質の向上
- 外部アライアンス等によるソリューションの幅と量の拡大（M&Aも視野）
- 新たな事業会社の新設



グループ連携の 一層の強化

- 事業会社間の連携
- HDと事業会社間の連携
- 事業会社間での人財交流の活発化、事業会社間での短期トレーニー制度の新設



構造改革を通じた 経営資源の再配分

- グループ会社の再編および各社業務の抜本的な見直しによる法人分野・新規事業分野への経営資源の再配分
- 重点分野への積極的な投資
- キャリア採用を含めた専門人財の確保

「地域」・「お客さま」とともに成長していく

ホールディングスの第2ステージ -地域社会への取組みについて-

地域活性化なくして、当社グループの発展はないとの考えのもと、主体的に連携を図れる**広島県をベースに、「地域として取り組むべき課題」**の解決に向け、**「サステナビリティ指標」**の設定など、**行政・地域社会と連携**し取り組んでいく



企業価値向上に向けた取組み

財務面の戦略

非財務面の戦略

企業価値
(PBR)



ROE



RORAの向上

p.13-16

- リスクアセットを活用したビジネス展開
- リスクアセットを活用しない利益の積上げ

財務レバレッジコントロール

- 株主還元の強化 p.17
- 政策保有株式の縮減 p.18

中長期的に「ROE > 株主資本コスト」を目指す

人的資本投資

p.19

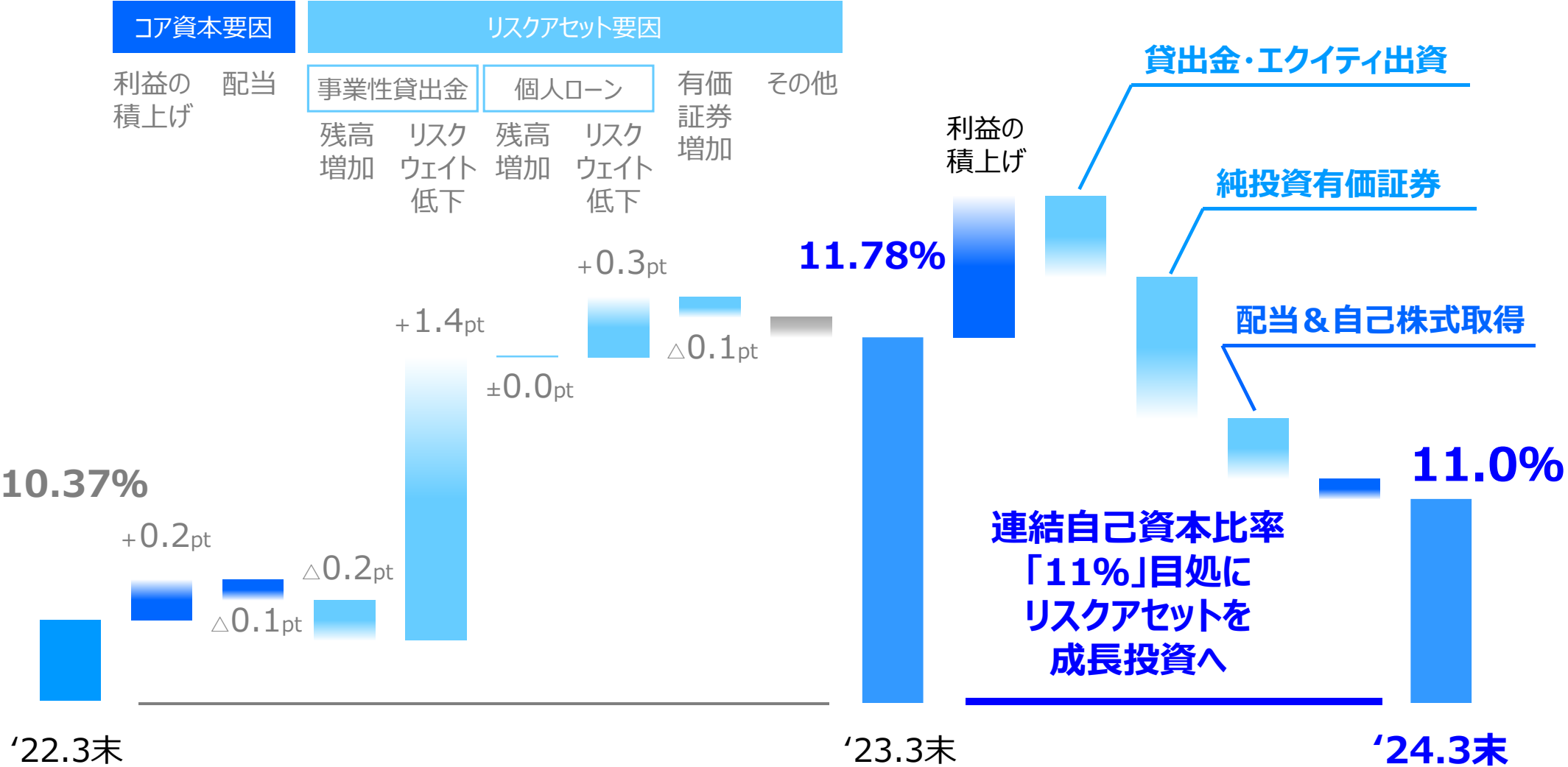
- ダイバーシティ&インクルージョン
- エンゲージメント向上
- 人財育成

ESG

p.20-21

- カーボンニュートラル
- 地域経済活性化
- ガバナンス強化

ひろぎんグループの戦略 - ビジネス展開の前提 -



法人分野の取組み

これまでの注力分野

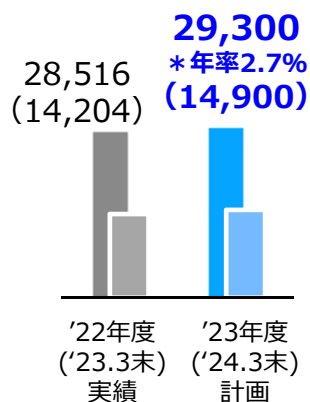
金融分野

- 地元4県中心のリスクテイク（貸出金、エクイティ出資）
- 事業承継・M&Aニーズへの対応

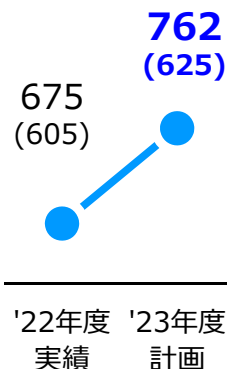
非金融分野

- ITコンサルティング業務の取組強化
- 人事労務ソリューションの提供

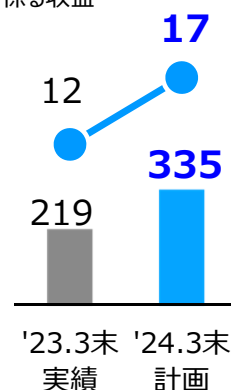
地元4県・事業性貸出平残（RWAの額）



貸出金利息（）は外貨調達費用控除後



エクイティ出資のRWA(棒グラフ)、エクイティ出資・事業承継・M&Aに係る収益



加えて



新たな注力分野

更なる収益力強化に向けて、

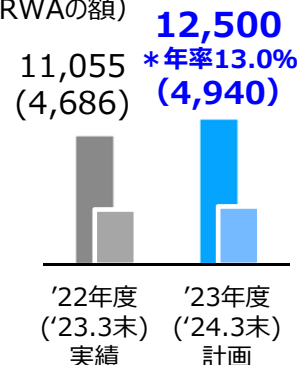
既存分野

- 今後の金利上昇を見据えたストラクチャードファイナンス等へのリスクテイク(資金量増加による資金利益の強化)
- カーボンニュートラル関連ファイナンスの強化

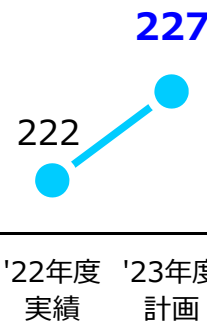
新規分野

- 不動産リース推進強化、航空機リース参入(検討)
- ファンドやアライアンスを活用した新たな収益源の確保
- グループ再編を通じた新たな機能の獲得(グループ収益の増強)
- 地域企業と連携した地域への再生可能エネルギー供給スキームの検討

ストラクチャードファイナンス等に係る事業性貸出平残（RWAの額）



リースの営業収入



収益力強化に向けた人員再配置

リースの業容拡大に向け50億円増資

有価証券ポートフォリオの再構築

目指すポートフォリオ

今後の投資方針

	'23.3末 実績	'24.3末 計画	中長期的な 方向性
有価証券 残高 (RWAの額)	1兆5,815億円 (6,349億円)	1兆9,000億円 (8,800億円)	2兆円
	利回り0.36%	利回り0.4%	利回り1%
うち国債・ 地方債・ 社債	1兆100億円	1兆2,000億円	1兆4,100億円
うち外債	2,205億円	2,300億円	1,400億円
うち株式・ ETF	1,299億円	1,800億円	2,000億円
うち投信等	1,568億円	1,600億円	1,400億円

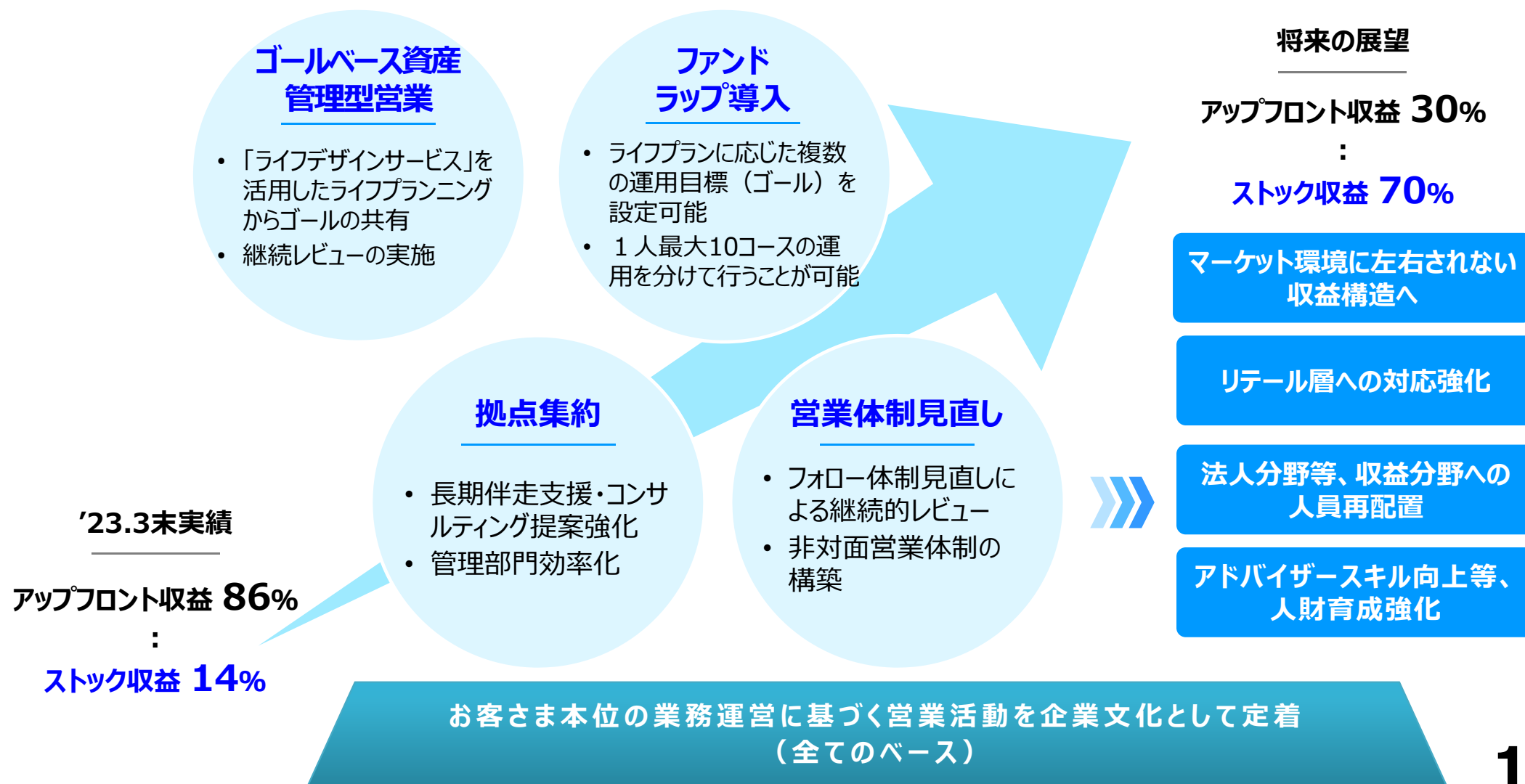
許容されるリスクの範囲内で中長期の観点から安定的かつ継続的に高い資金収益が確保できる有価証券ポートフォリオを構築

有価証券利回り1%

- 国債は、金利上昇局面で段階的に積み増し（長期に亘る定期的な買入によりラダーポートフォリオの構築を目指す）
- 地方債は、満期保有目的枠等を活用し、積み増し
- 逆ザヤの固定債削減
- 金利変動への対応に向け海外企業が発行する変動債への投資の拡大（社債、CMOフローター）
- 国内株式資産を中心としたリスク性資産の割合増加による利回り向上
- 調達コスト負担のない外債投資による収益力向上（ポートフォリオの資産間相関を考慮したバランス運用による為替リスクテイク）
- 既存投信等のリスクアセット、為替ポジションの削減

(注) 内部管理計数ベース、残高は簿価ベース、利回りは外部調達費用考慮後、有価証券残高（全体）に政策投資含み、投信等に特定金銭信託含む

個人分野の取組み -「人生の総合窓口」として取組み-



株主還元の考え方

健全性維持・成長投資

株主還元

収益力強化に向けた資本活用

- アセットの積上げ
- 戦略分野への投資拡充
- 人的資本への投資拡充等

11.0%
程度を目処

収益力強化に向けた資本活用と
資本の蓄積のバランスを取りなが
ら運営

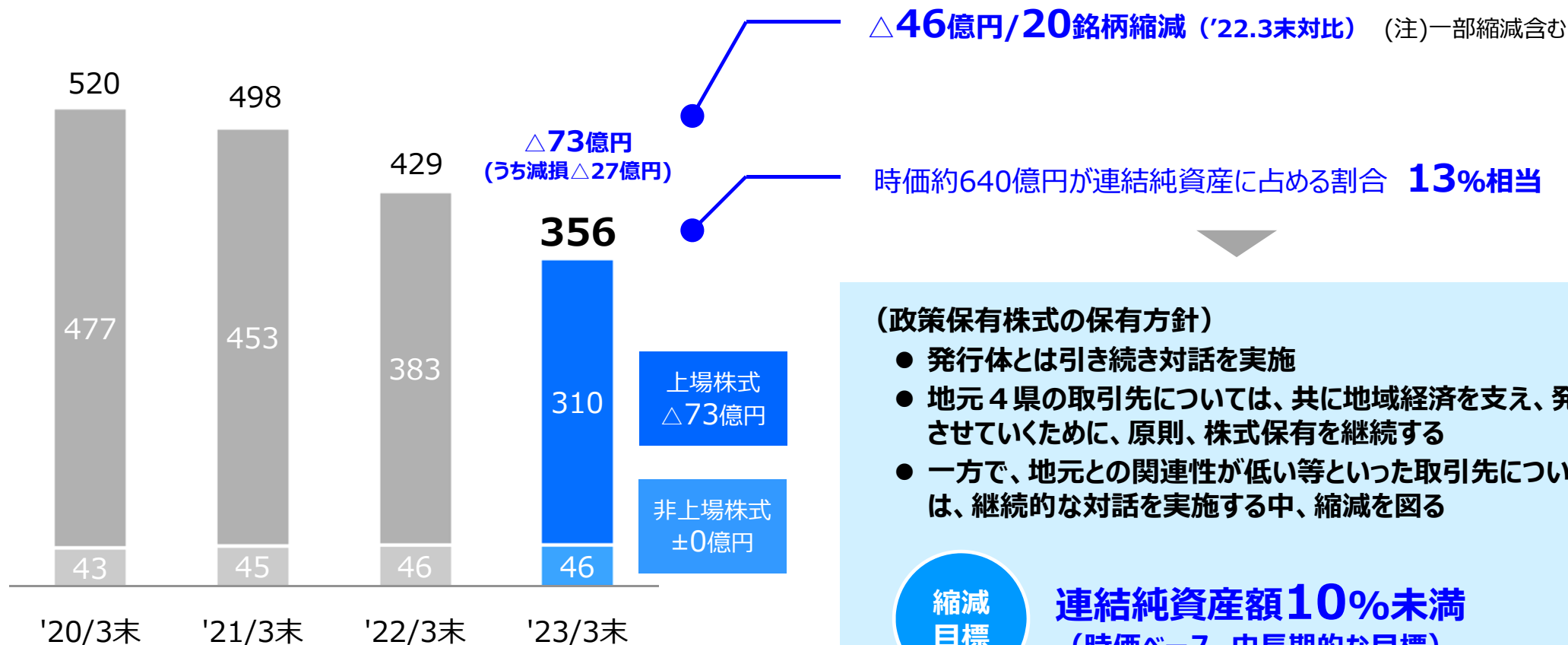


- 配当性向「40%程度」
- 機動的な自己株式取得
(2023年度は、30億円実
施、最大5百万株)

自己資本比率
(HD連結)

政策保有株式の縮減

(億円)



人的資本投資

ダイバーシティ&インクルージョン

Point

- 多様な視点・価値観を持つ従事者が、自らの意志や気付きをもとに能力を発揮できる組織を構築
- 多様性の確保と組織への包摂を実現

(女性の比率)	'23.4.1時点	'24.4.1目標	'31.4.1目標
管理職※1	7%	7%程度	25%程度
マネジメント職※2	17%	20%程度	30%程度
マネジメント職候補	35%	35%程度	45%程度
新入社員	42%	50%程度	
全社員	42%	—	45%程度

(※1)労働基準法上の「管理監督者」および同等の権限を有する者（管理職等）

(※2)管理職および管理職の一つ手前の職員者の合計

成長支援

Point

- 主体的なキャリアパス実現に向けた人財育成体系や研修体系を構築
- 従事者一人ひとりの挑戦・成長を公正に評価する制度の整備

エンゲージメント

Point

- 前例に捉われない新たなチャレンジを後押しする施策展開
- 風土醸成を通じた従事者の働きがいの向上と自律的なキャリア形成の促進により、強固なエンゲージメントを構築

未来創造推進 ワーキンググループ

- 若手世代（20代～30代半ば）および中堅・中核世代（主に30代半ば～40代）が、地域・当社グループの未来創造に向けた取組推進に関する事項について審議・検討を行う。
- また、その内容等について、経営陣等に対して提言・意見具申を行う。

リバースメン ター制度

- 若手・中堅職員が役員との対話を通じて、アドバイスやフィードバックを行う双方向的なメンター制度のこと。
- 異なる世代や役職間の相互理解と一体感を醸成する機運を高め、多様な働き方の実現とチャレンジする風土の醸成の基盤となるフラットな組織作りを進める。

社内トレーニー 制度

- 短期のインターンシップにより多様な業務を経験し、自身のビジョンに沿ったキャリアパスの構築に活かす。

健康

Point

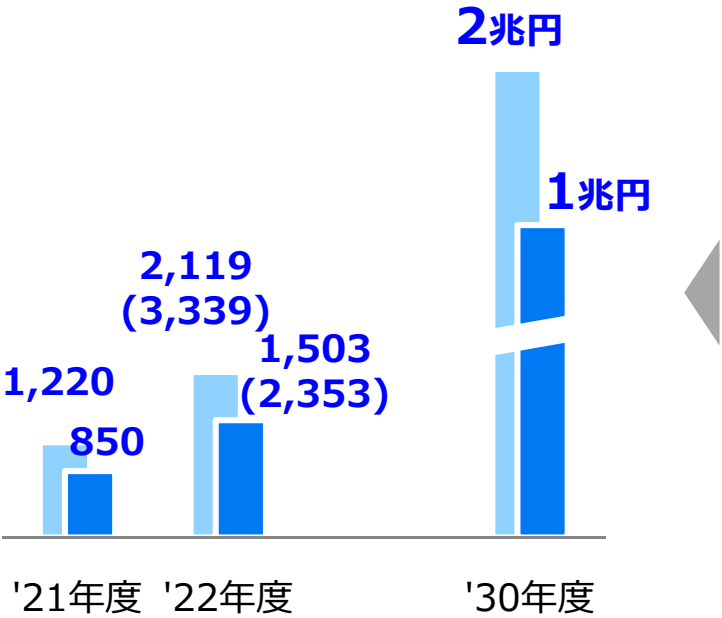
- ウェルビーイング向上を含め、積極的な健康投資を実施
- 従事者の健康・安全を支援

地域および当社グループのカーボンニュートラルに向けた取組み

サステナブルファイナンスの中長期目標

目標	環境・社会課題の解決に資するサステナブルファイナンス 2兆円実行('21~'30年度累計、うち環境ファイナンス 1兆円)
----	--

サステナブルファイナンスの実行状況（億円）
* 右：環境ファンナンス、（ ）は累計



総合的な
コンサルティング

- 主要産業(マツダサプライヤー、船舶関連等)における伴走支援(金融・非金融両面から)
- エンゲージメント強化

アライアンス

- 外部ステークホルダー等と連携した支援
- 地域企業と連携した地域への再生可能エネルギー供給スキームの検討

スコープ3 / カテゴリー15

目標	2050年度までに投融資ポートフォリオを含めたサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量（スコープ1・2・3）のカーボンニュートラルの達成を目指す
----	--

製造業が多い地元4県の地域特性を受け、環境省「金融機関向けポートフォリオ・カーボン分析パイロットプログラム支援事業」へ参画し、スコープ3 / カテゴリー15算出

広島銀行の事業性貸出における温室効果ガス排出量（ファイナンスド・エミッションズ）の実績（'22年3月期、t-CO₂）

	業種分類	t-CO ₂	うち「地元」・「メイン・準メイン先」合計
1	電力	1,591,000	441,717
2	金属・鉱業	988,365	448,050
3	海運	889,379	545,699
4	自動車	538,381	275,277
	⋮	⋮	
	合計	10,287,278	5,537,914

カーボンニュートラルを目指す 20

地域経済活性化

新たな産業の創出



広島駅7分

原爆ドーム8分

場所

サテライトオフィス、
貸会議室等の
設置

仕掛け

人材交流・イベント
開催によるアイデア
創出や共創の実現

- コワーキングスペースを開設
- スタートアップ・ベンチャーから学生まで幅広い交流を促進することで、新たな事業や起業を創出

まちづくり

広島市内の再開発の状況

新サッカー
スタジアムの建設
(’24年開業予定)

広島駅ビル
建替え (’25年完成予定)



広島市内中心地を問わず、数多くの再開発案件が稼働

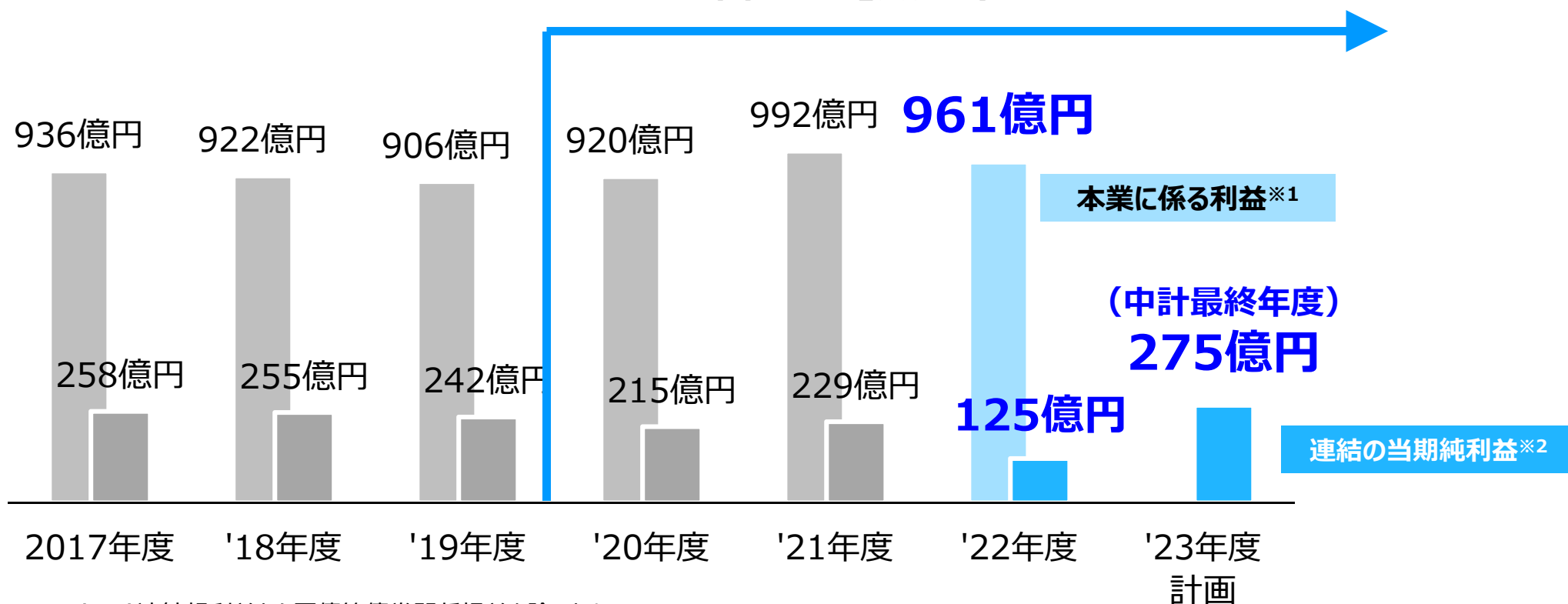
- 01 当社グループの概要
- 02 戦略
- 03 業績**
- 04 資本政策
- 05 最後に

利益水準

2020年10月

ひろぎんホールディングス設立（持株会社体制移行）

「中期計画2020」スタート



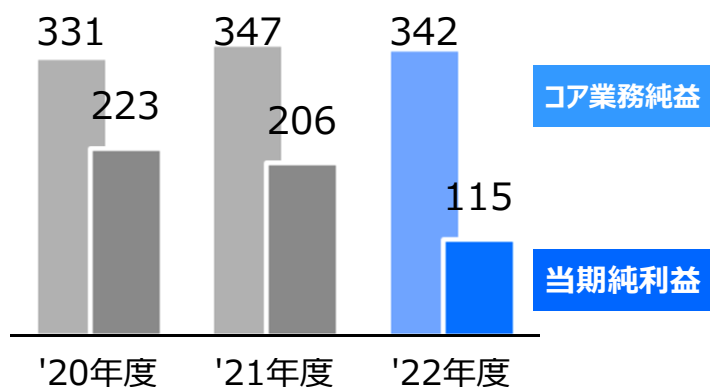
(※1)連結粗利益から国債等債券関係損益を除いたもの。

(※2)親会社株主に帰属する当期純利益

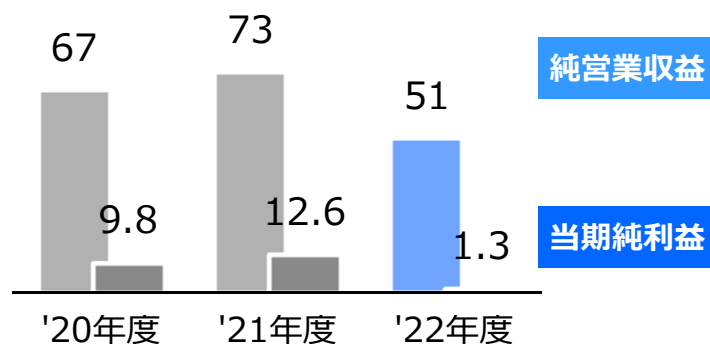
主要グループ会社の損益

(億円)

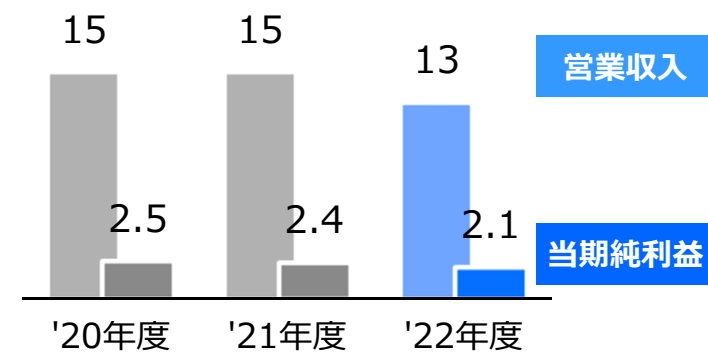
広島銀行



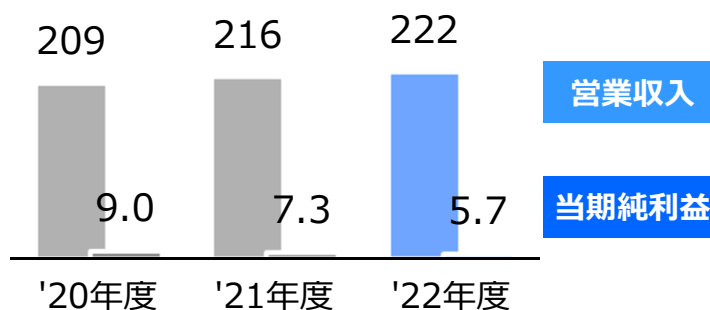
ひろぎん証券



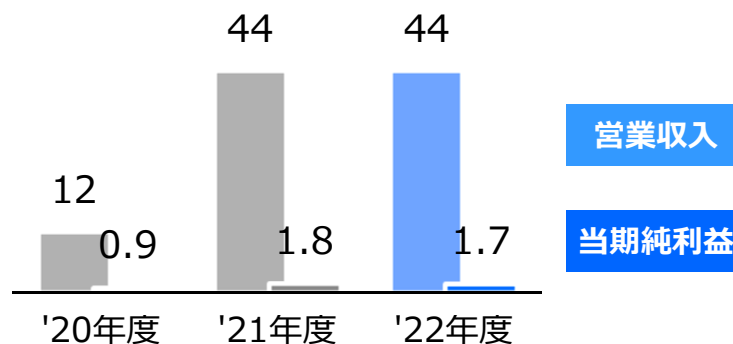
しまなみ債権回収



ひろぎんリース



ひろぎんITソリューションズ



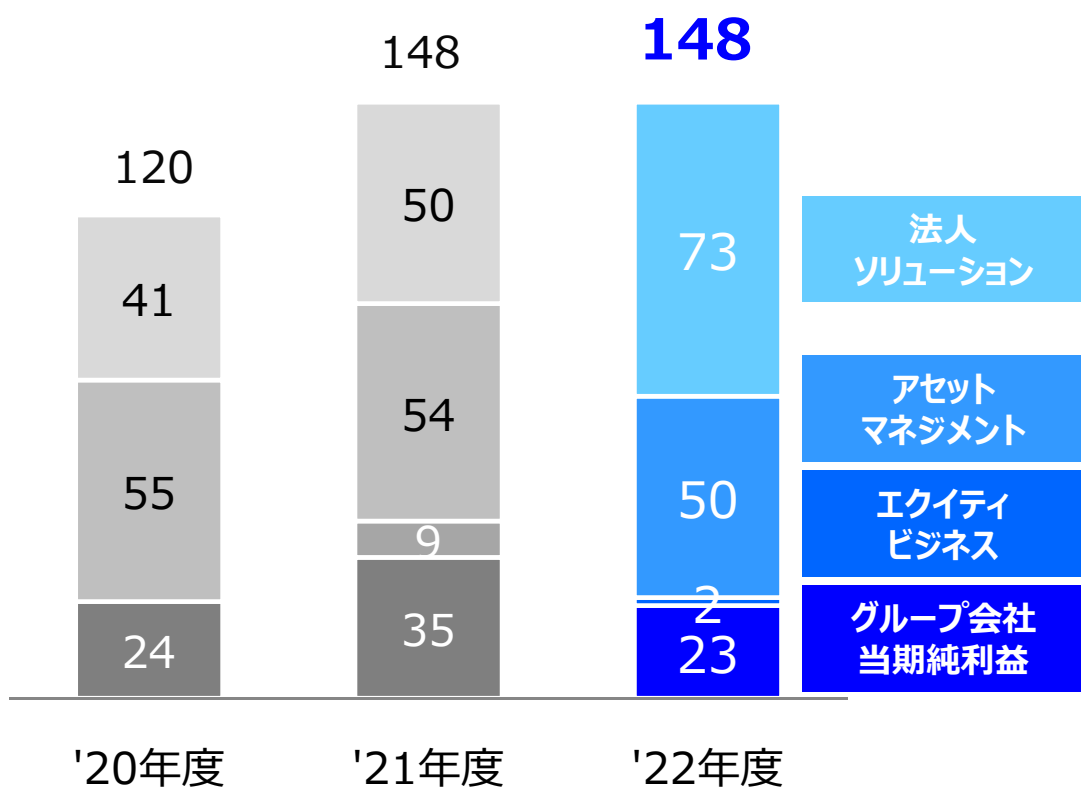
**持株会社
体制移行後、
堅調に推移**

(注)ひろぎんITソリューションズの2020年度実績は、子会社化した2021年3月以降の実績

コンサルティング業務に係る収益

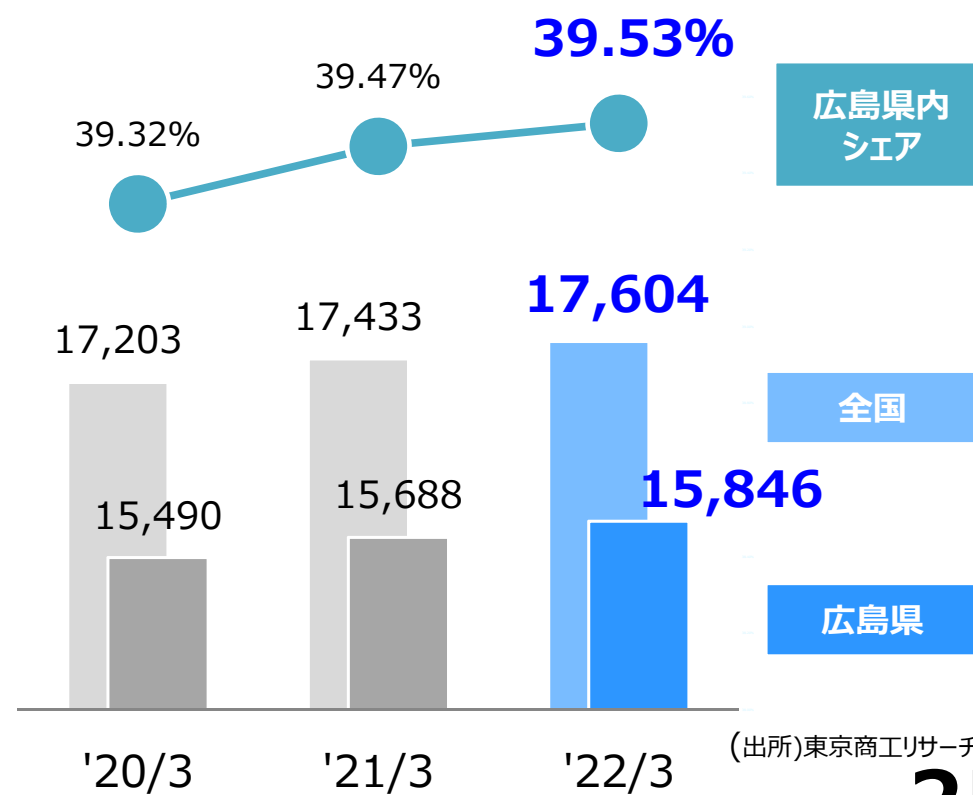
お客さまへのコンサルティングに関連する収益

(億円)



広島銀行のメインバンク社数（全国）

(社)

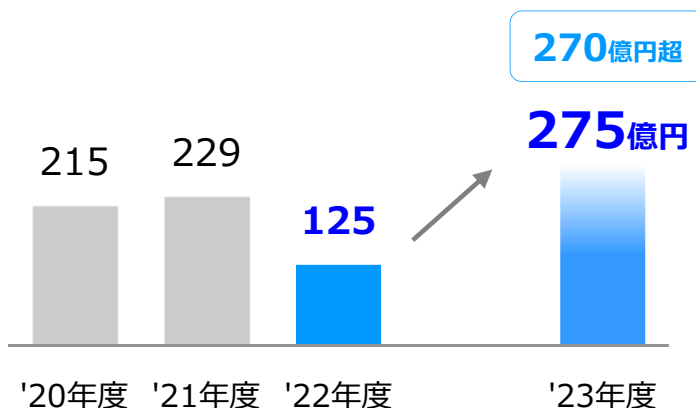


(出所)東京商工リサーチ

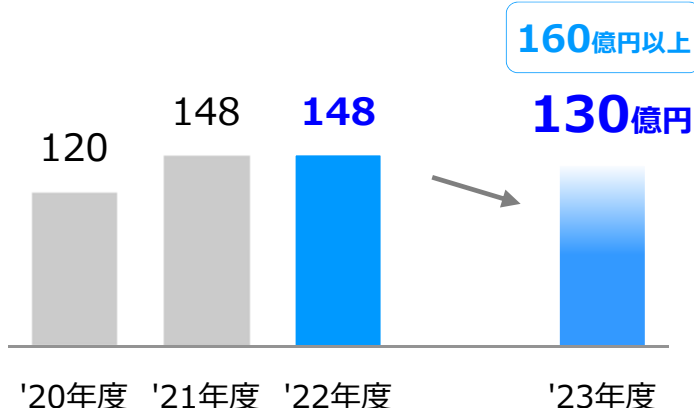
「中期計画2020」の進捗状況

(億円)

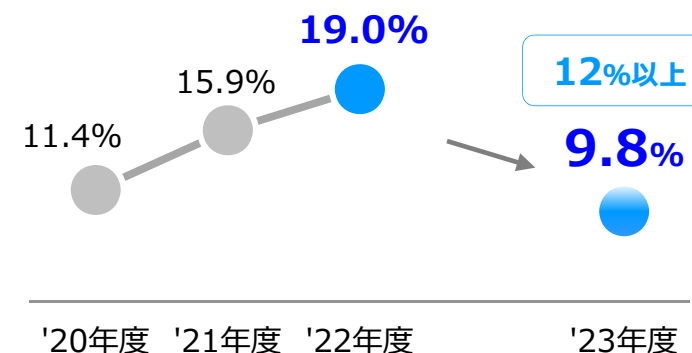
親会社株主に帰属する当期純利益



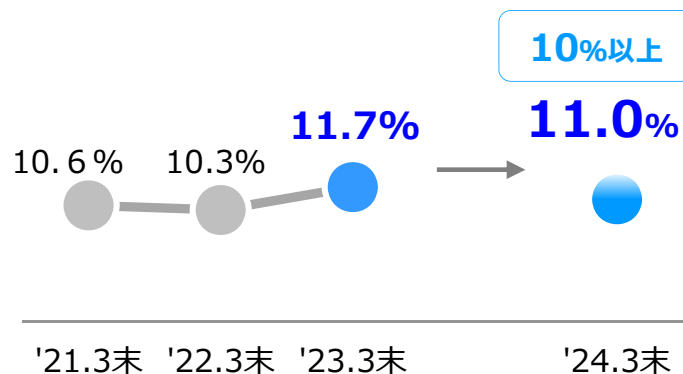
法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益※1およびグループ会社当期純利益※2の合計



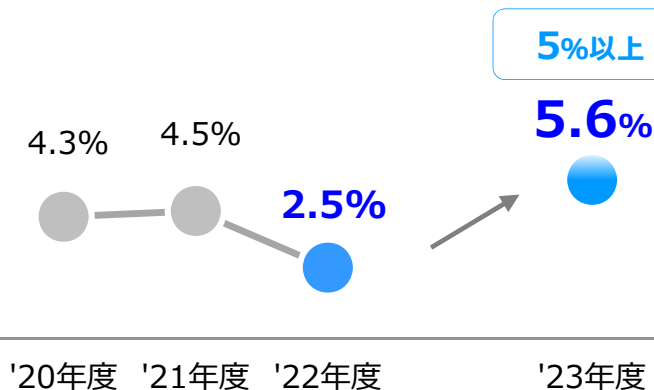
グループ会社連結寄与度※3



連結自己資本比率



連結ROE



は中計最終年度の目標

※1 法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益 = 法人ソリューション、アセットマネジメントおよびエクイティビジネスに係る収益の合計

※2 グループ会社当期純利益 = 銀行を除く連結子会社の当期純利益に
出資比率を乗じた額の合計

※3 グループ会社連結寄与度 = $\frac{\text{グループ会社当期純利益(※2)}}{\text{親会社株主に帰属する当期純利益}}$

- 01 当社グループの概要
- 02 戦略
- 03 業績
- 04 資本政策**
- 05 最後に

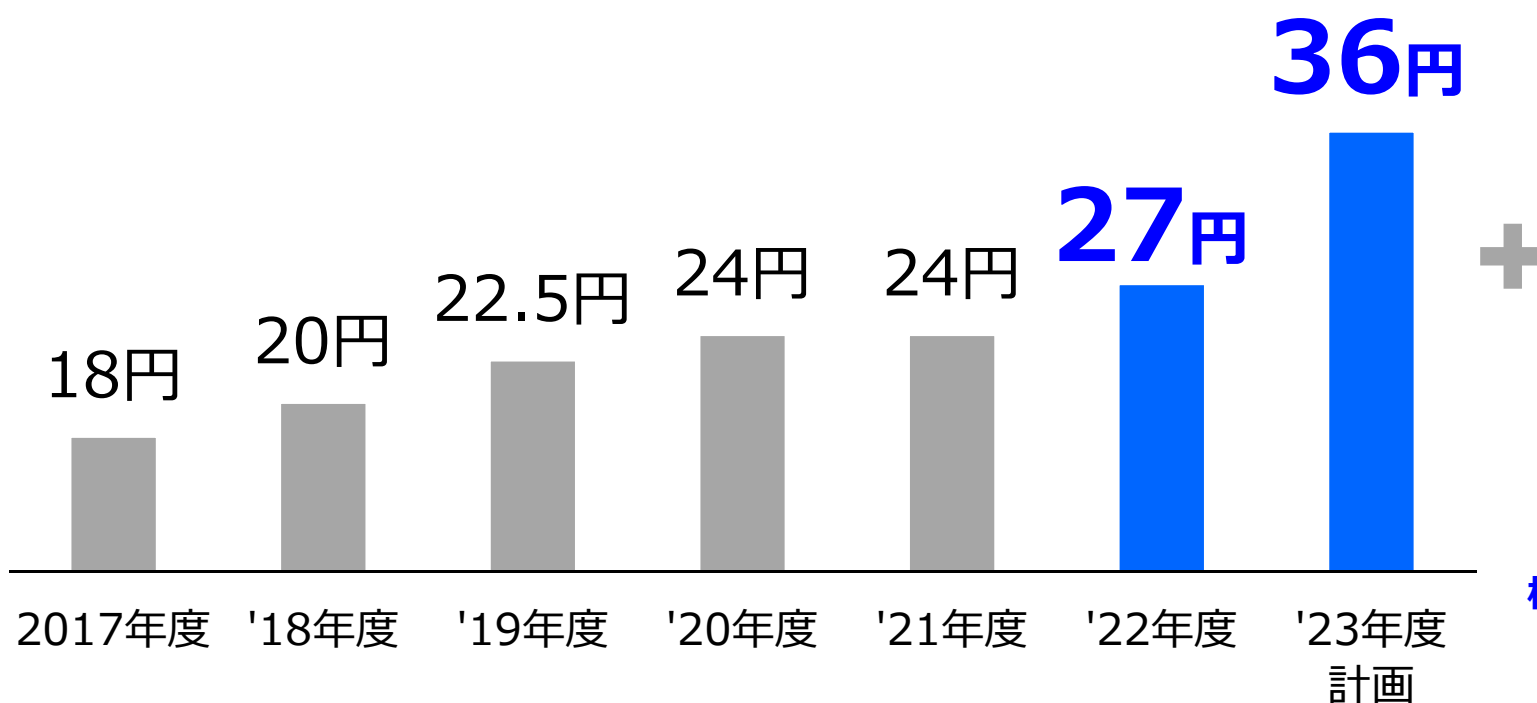
1株当たりの配当金

2023年7月20日の
株価による配当利回り

約**4.2%**

連結の当期純利益に占める
配当金総額と自己株式取得
総額の合計は

約**50%**



自己株式取得
(2023年度)

30億円

収益力強化に向けた資本活用と
株主還元のバランスを勘案する中、
継続的な自己株式取得を実現

(注)2017年10月1日に株式併合(2株を1株に併合)を実施しております。2017年度の1株あたりの配当金額は、株式併合を勘案した金額を掲載しております。

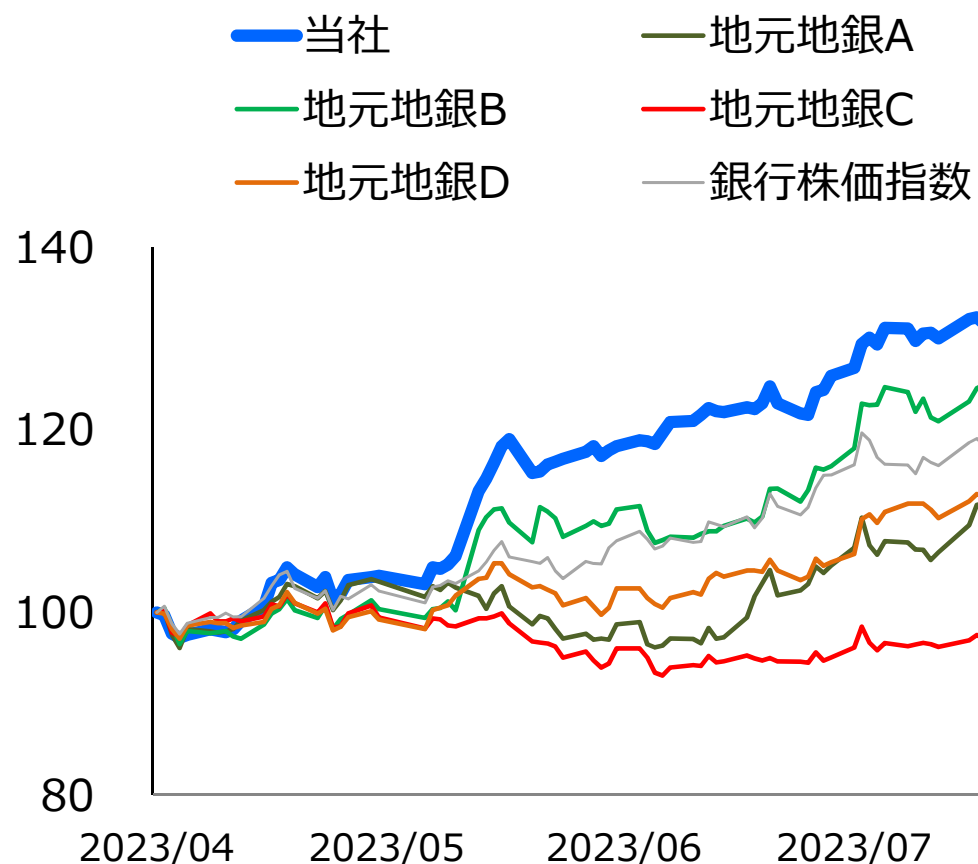
時価総額

(2023.6.30時点)

2,530億円

全国の地銀 第**9**位/74社

中四国の地銀 第**1**位/14社中



(注)2023年4月3日を100として指数化

株価の水準感

配当利回り

2.6%

1.0%

3.2%

4.2%

PBR

0.92倍

0.78倍

0.60倍

0.50倍

✓ 高配当利回り
✓ 割安

県内
流通大手

県内
インフラ大手

県内
製造大手

当社

(注)2023年6月30日の株価に基づき算出。PBRは、株価を1株当たりの純資産で除したもの。

株主優待制度

* 毎年3月31日が基準日

	100株以上 500株未満	500株以上 1,000株未満	1,000株以上 5,000株未満	5,000株以上
定期預金	—	—	スーパー定期の店頭表示金利に <u>+0.10%</u> (期間1年・5百万円迄)	スーパー定期の店頭表示金利に <u>+0.30%</u> (期間1年・5百万円迄)
			or	or
地元特産品 カタログギフト・ ギフトカード	<u>500円</u> ギフトカード	<u>1,000円</u> ギフトカード	<u>5,000円</u> 相当のカタログギフト	<u>15,000円</u> 相当のカタログギフト
	▼	▼	▼	▼
配当 + 株主優待 による利回り (試算)	4.5% ~ 5.0%	4.5% ~ 4.7%	4.5% ~ 5.0%	4.4% ~ 4.8%

(注)1株当たりの配当金は、2023年度業績見通しに基づく36円により算出。株価は、2023年6月30日の株価に基づき算出。

株主優待制度

100株以上お持ちの株主さまが対象

*** 毎年3月31日が基準日**

招待券贈呈



公益財団法人

ひろしま美術館
HIROSHIMA MUSEUM OF ART

への無料ご招待券2枚



フィンセント・ファン・ゴッホ
「ドービニーの庭」(1890年)



クロード・モネ
「セーヌ河の朝」(1897年)

印象派を中心に約90点、
日本人画家の作品を
約90点を展示

広島3大プロ
観戦・鑑賞
チケットの
抽選権付与

広島東洋カープ
10組20名さま
(内野指定席)

or

サンフレッチェ広島
50組100名さま
(S S 指定席)

or

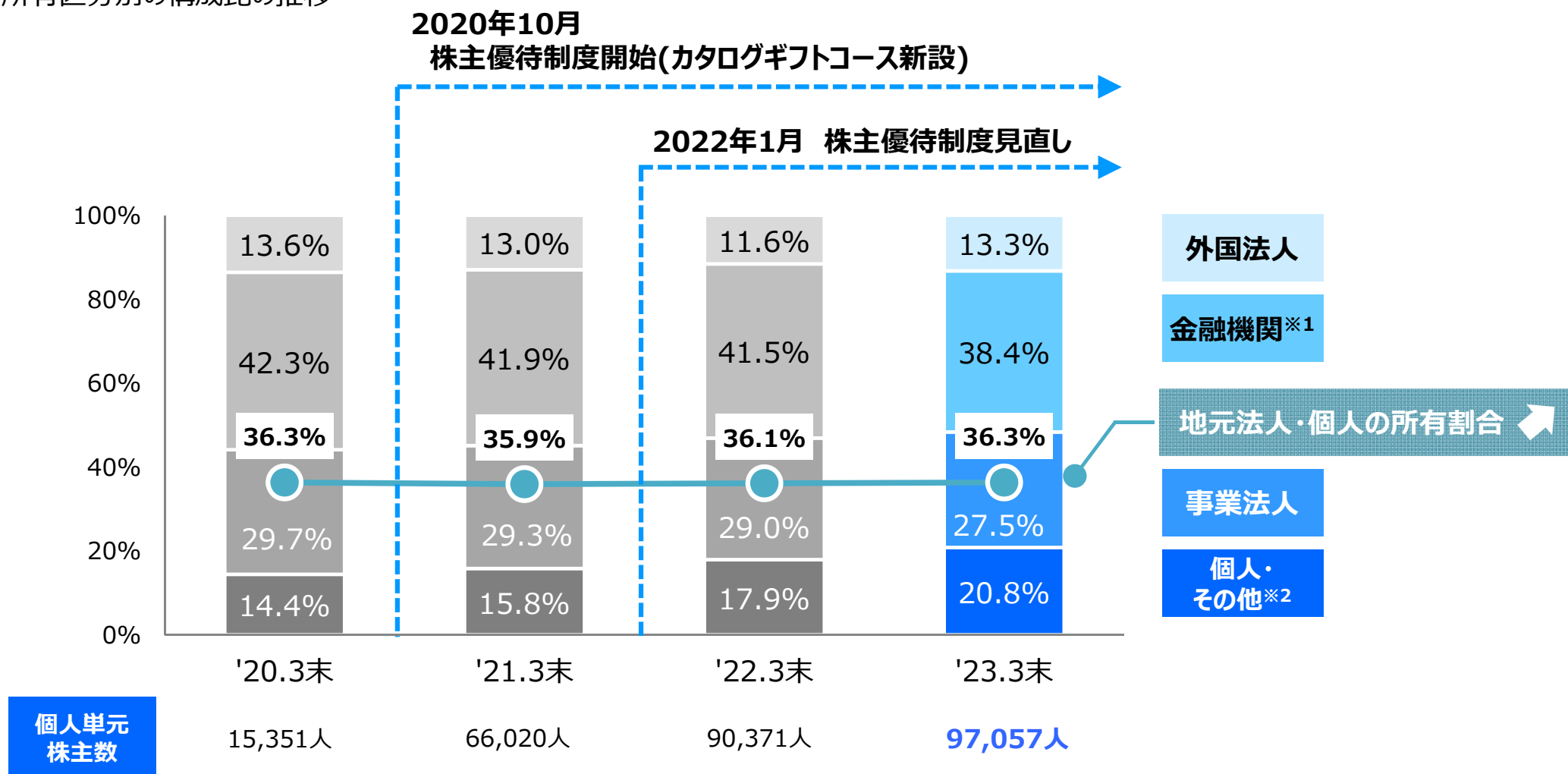
広島交響楽団
50組100名さま
(S 指定席)

(注1)応募の際にいずれかをご選択頂きます。

(注2)招待数および招待席に関しましては、新型コロナウイルス感染症等の影響により、試合数および公演数の変更ならびに収容来場客数の変更等があった場合には、ご案内できない可能性があります。

目指す株主構成

所有区分別の構成比の推移



(※1)金融機関とは普通銀行・生損保・その他金融機関の合計、(※2)その他は従業員持株会等

- 01 当社グループの概要
- 02 戦略
- 03 業績
- 04 資本政策
- 05 最後に**

業績

- 法人ソリューション収益をはじめ**本業は堅調**に推移。
- 一方で、有価証券運用において、外国債券の処分損や保有株式の評価損に係る損失を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比減益の125億円。
- 中計最終年度として、グループ連携の強化、各社のクオリティ向上を図る中、**親会社株主に帰属する当期純利益は、275億円**を予定。（**中計目標達成**予定）

戦略

- バーゼルⅢ最終化の早期適用等により上昇した自己資本の有効活用等、**当社の強みである法人分野への経営資源の投入により、収益の更なる向上**を図る。
- また、当社グループの課題である**有価証券運用**において、3～4年かけて、ポートフォリオを再構築し、**収益を改善**させていく。
- こうした取組みにより、**安定的に高い収益が確保**できる事業ポートフォリオを構築する。

資本政策

- 1株当たりの配当金は**増配基調**にあり、**配当利回りも相対的に高い**。
- また、先般見直しを公表した株主還元方針に基づき、**配当性向40%（1株当たりの年間配当金36円）、自己株式取得30億円**を実施。
- また、地元特産品等の**充実した株主優待制度**をご準備。

本資料に関するご照会先

本資料には、将来の業績等に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績等を保証するものではなく、不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意下さい。

株式会社 ひろぎんホールディングス 経営企画グループ

電話 : 082-245-5151(代表)

URL : <https://www.hirogin-hd.co.jp/>